

これからも府民の 健康・安心をまもるために



化学物質を数値にして見える化！
府民の皆さまにも生態系にも
安全で安心な環境を守ります！
(化学物質グループ 原研究員)



河川の調査



廃棄物処分場の
水質調査



水質の分析

化学物質のリスクから
大阪の環境をまもるために
調査・研究を続けています

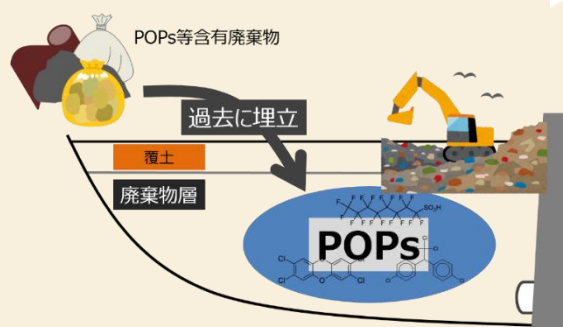


地方独立行政法人
大阪府立
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture

環境農林水産総合研究所

Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture

廃棄物処分場における有害化学物質の実態把握と処理技術の検証



POPs等含有廃棄物
過去に埋立
覆土
廃棄物層
POP
PFAS
約40物質
PFOA
PFOS
など
4,730
物質以上

PFAS(有機フッ素化合物)のうち、PFOA、PFOSなどはPOPsに指定

浸出水中の
POPs濃度を調査

水処理過程での
POPs濃度低減を調査

放流

※PFOA…ペルフルオロオクタン酸
PFOS…ペルフルオロオクタンスルホン酸



微量でも生態系への影響が懸念されるPOPの実態把握や対策技術の調査研究を行っています。
(化学物質グループ 伊藤総括主査)

農地土壌・水や農作物中の有機フッ素化合物(PFAS)に関する研究

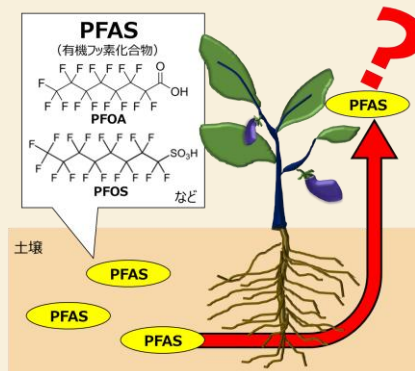
PFASのうちPFOA、PFOSなどは現在、製造や使用などが規制されています。しかし、過去に環境中に放出されたPFASが水や土壌から農産物に移行し、人が農作物を摂取することによる健康影響が懸念されています。

環農水研では、国の研究機関とともに**農地土壌のPFASの分析法マニュアル(世界初)**を作成しました。さらに、**農作物中などの分析法の開発や、農地土壌・水などから農作物への移行等のメカニズムの解明**に取り組んでいます。



これまでの化学物質分析の経験を活かし、農作物へのPFAS吸収・移行のメカニズムの解明に貢献します。
(化学物質グループ 小野主査)

農作物中のPFAS
の挙動を研究



環境中のマイクロプラスチックの汚染実態の検証



プラスチックの採取
(動力付きの船で網を
引く「曳網法」)

検出された
マイクロプラスチック



マイクロプラスチック(MPs)とは、大きさが5mm以下のプラスチックのことで、私たちが日常で使用しているプラスチックも太陽の紫外線、風や波などにより微細化され、MPsとなります。MPsは自然分解されず、環境中に半永久的に残り続けます。生物の体内へ取込まれる事例も多く報告されており、生物への影響や食物連鎖を通じた人体への影響が懸念されています。

環農水研では、**河川や海域の水の中や底泥、生物の体内などに含まれるMPsの密度や成分を測定し、汚染実態を調査するとともに、生物による取込や蓄積、捕食等による生物間での移行などについて調べています。**



生物多様性の保全のためにも環境中のマイクロプラスチックの汚染実態を把握することは重要です。
(森・里・川の生きものグループ 近藤研究員)

